

## タンポポスズメダイの水中写真に基づく屋久島からの記録

岩坪洗樹<sup>1</sup>・原崎 森<sup>2</sup>・本村浩之<sup>3</sup><sup>1</sup> 〒 892-0847 鹿児島市西千石町 11-21 鹿児島 MS ビル 鹿児島水圏生物博物館<sup>2</sup> 〒 891-4205 鹿児島県熊毛郡屋久島町宮之浦 2473-294<sup>3</sup> 〒 890-0065 鹿児島市郡元 1-21-30 鹿児島大学総合研究博物館

## ■ はじめに

スズメダイ科魚類 *Chromis albicauda* Allen and Erdmann, 2009, *Chromis analis* (Cuvier in Cuvier and Valenciennes, 1830), および *Chromis xouthos* Allen and Erdmann, 2005 は、体高が高く体は丸みを帯びること、背鰭棘数が 13 であること、および成魚は体が黄系色を呈することなどの特徴を共有し、互に酷似するため、日本国内では長らく混同されていた(岩坪・本村, 2010, 2016)。岩坪・本村(2010)は標本に基づき、国内から *C. albicauda* を報告し、標準和名コガネスズメダイを適用した。その後、岩坪・本村(2016)は、岩坪・本村(2010)が *C. analis* と同定し、標準和名ヒマワリスズメダイ提唱の基準とした標本(KAUM-I. 29566, 体長 95.9 mm)を *C. xouthos* に同定した。それと同時に、八重山諸島西表島から得られた *C. analis* の標本(OMNH-P 34155, 体長 96.0 mm)に基づき、標準和名タンポポスズメダイを提唱した(岩坪・本村, 2016)。したがって、標準和名と学名の対応は、コガネスズメダイ *C. albicauda*, タンポポスズメダイ *C. analis*, およびヒマワリスズメダイ *C. xouthos* となった。

タンポポスズメダイは、国内からは八重山諸島

西表島からのみ記録されていた(加藤, 2011; 岩坪・本村, 2016)。しかし、2005年3月27日に大隅諸島屋久島の一湊沖水深 25m で撮影されたスズメダイ属魚類の水中写真が、タンポポスズメダイに同定された。この写真は本種の北限更新記録となるため、ここに報告する。

## ■ 材料と方法

囲眼部の骨の名称は、岸本ほか(2006)にしたがった。写真から明瞭にわかる形質の計数を行った。涙骨上の鱗列(Preorbital scale rows)は眼窩前縁下方・主上顎骨間の鱗の横列数、眼下骨上の鱗列(Suborbital scale rows)は眼下骨上の鱗の横列数を計数した。本報告に用いた水中写真は、鹿児島大学総合研究博物館の画像データベース(KAUM-II)に登録されている。本報告中で用いられている研究機関略号は以下の通り: KAUM(鹿児島大学総合研究博物館); OMNH(大阪市立自然史博物館)。

## ■ 結果と考察

*Chromis analis* (Cuvier in Cuvier and Valenciennes, 1830) タンポポスズメダイ (Fig. 1)

写真 KAUM-II. 64, 大隅諸島屋久島一湊, 水深 25 m, 2005年3月27日, 原崎 森。

分布 日本国内では、大隅諸島屋久島(本報告)と八重山諸島西表島(加藤, 2011; 岩坪・本村, 2016)から報告された。日本国外では、フィリピンのセブ島とルソン島(加藤, 2011)、インドネシアのアンボン島(Cuvier and Valenciennes, 1830)、スマトラ島(岩坪・本村, 2016)、バリ島

Iwatsubo, H., S. Harazaki and H. Motomura. 2018. An underwater photograph record of *Chromis analis* (Perciformes: Pomacentridae), from Yaku-shima island, Osumi Islands, Kagoshima, Japan. *Nature of Kagoshima* 44: 221-223.

✉ HI: Kagoshima Museum of Aquatic Biodiversity, Kagoshima MS Building, 11-21 Nishisengoku, Kagoshima 892-0847, Japan (e-mail: k8878027@kadai.jp).

Published online: 14 Mar. 2018

[http://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK\\_044/044-030.pdf](http://journal.kagoshima-nature.org/archives/NK_044/044-030.pdf)



Fig. 1. Underwater photograph of *Chromis analis* (off Isso, Yaku-shima island, Osumi Islands, Kagoshima, Japan, 25 m depth, 27 March 2005). Photo by S. Harazaki.

(加藤, 2011; Allen and Erdmann, 2012: 577, left fig.), フローレス島 (Kuitert and Tonozuka, 2004: 390, upper fig.), およびオーストラリアのグレートバリアリーフ (Allen, 1991: 238, fig.) から記録がある。

備考 屋久島一湊で撮影された水中写真は、体高が高く体は丸みを帯びること、背鰭が13棘12軟条であること、臀鰭が2棘11軟条であること、胸鰭が18軟条であること、有孔側線鱗が15枚であること、涙骨上の鱗列が1-2、眼下骨上の鱗列が1であること、尾鰭が黄色を呈すること、胸鰭基底上端がわずかに黒色がかかること、背鰭棘部が一様に黄色であること、および体が緑色がかった灰色であることから、岩坪・本村 (2016) が示したタンポボスズメダイ *Chromis analis* の標徴とよく一致した。

加藤 (2011) は標本や水中写真を示していないが、タンポボスズメダイを“ヒマワリスズメダイ (タイプ2)”として八重山諸島西表島に分布することを記述した。その後、岩坪・本村 (2016) は西表島からの標本 (OMNH-P 34155, 体長 96.0 mm) に基づき *C. analis* を記録し、標準和名タンポボスズメダイを提唱した。岩坪・本村 (2016)

以降、タンポボスズメダイは日本国内から記録されていない。したがって、本報告は本種の西表島以北の海域からの初めての記録となる。第2著者による長年の屋久島における観察でも、タンポボスズメダイは2回確認されたのみである。本種は屋久島周辺海域で再生産しておらず、黒潮によって八重山諸島や台湾周辺から偶発的に来遊したものと考えられる。

## ■ 謝辞

本研究は鹿児島大学総合研究博物館の「鹿児島県産魚類の多様性調査プロジェクト」の一環として行われた。本研究の一部はJSPS科研費 (19770067, 23580259, 24370041, 26241027, 26450265), JSPS 研究拠点形成事業-B アジア・アフリカ学術基盤形成型, 国立科学博物館「日本の生物多様性ホットスポットの構造に関する研究プロジェクト」, 文部科学省特別経費「薩南諸島の生物多様性と其の保全に関する教育研究拠点整備」, および鹿児島大学重点領域研究環境 (生物多様性・島嶼プロジェクト) 学長裁量経費の援助を受けた。

## ■ 引用文献

- Allen, G. R. 1991. Damselfishes of the world. Mergus Publishers, Melle, 271 pp.
- Allen, G. R. and Erdmann, M. V. 2012. Reef fishes of the East Indies, vol. 2, pp. 425–856, Tropical Reef Research, Perth.
- Cuvier, G. and Valenciennes, A. 1830. Histoire naturelle des poissons, vol. 5. Chez F. G. Levrault, Paris. xviii + 499 + 4 pp., pls 100–140.
- 岩坪洗樹・本村浩之 2010. スズメダイ科魚類 *Chromis analis* ヒマワリスズメダイ (新称) と *C. albicauda* コガネスズメダイの日本における記録と標準和名. 日本生物地理学会会報, 65: 57–64.
- 岩坪洗樹・本村浩之 2016. スズメダイ科魚類 *Chromis analis* タンボボスズメダイ (新称) と *C. xouthos* ヒマワリスズメダイの日本における記録と標準和名. タクサ, 41: 40–45.
- 加藤昌一 2011. ネイチャーウォッチングガイドブック スズメダイ〜ひと目で特徴がわかる図解付き〜. 239 pp. 誠文堂新光社, 東京.
- 岸本浩和・鈴木伸洋・赤川 泉 2006. 魚類学実験テキスト. 130 pp. 東海大学出版会, 秦野.
- Kuiter, R. H. and Tonozuka, T. 2004. Pictorial guide to: Indonesian reef fishes, part 2, second edition, pp. 304–622, PT Dive & Dive's, Bali.